

新たな国立公文書館建設に関する基本計画（概要）

建物の概要

場所：国会前庭（憲政記念館敷地）

建物：地上3階地下4階程度

総建物面積：約42,000㎡

←憲政記念館・駐車場を含む面積

工事費：約480億円

（什器等諸費用を除く。）

工期：約8年半

※ 現時点の試算であり、今後の物価変動、
詳細検討により変動する可能性がある。

設計に当たっての基本的な考え方

国立公文書館

＜世界に誇れる国民本位の施設の実現を目指す＞

- ・公文書の重要性を象徴するような空間づくり
- ・我が国の歴史と伝統を踏まえた**品格ある外観**
- ・様々な世代の人々に利用される拠点としての利便性に配慮

独自性への配慮

- ・両館の異なる歴史と役割、立法府と行政府の独立性に鑑み、それぞれの特徴を踏まえた機能配置・外観
- ・とりわけ**外観については両館の独自性が充分表現されるよう**配慮

利便性及び合理性

- ・両館と一緒に建築されるメリットを活かし、共同使用部分については機能的な調整を図り、全体として**合理的な施設**とするとともに、**来館者の利便性向上を図る**工夫を行う

憲政記念館

- ・現状の利便性の維持
- ・現在の建物が有する歴史的価値を尊重し、ビルディングエレメントや単位空間の活用や再築を検討

新館のポイント



国の三権が集中する**最高の立地**を活かし、
広い世代の国民に「国のかたちや国家の記憶」を伝える

（今後の検討）

- ・音声・映像等の多様な資料や先端技術を活用した展示手法
- ・所蔵資料に合わせた効率的な書架形式やICTの活用を通じた文書管理技術

等

日本国憲法（御署名原本）

徳川実紀（御実紀）

日本書紀（現存最古の全巻揃い）

平成の書

新館での機能拡充により、極めて幅広い年代の所蔵資料をさらに活用、文書の原本＝「本物」に触れる体験を提供

修復が必要な劣化資料の例

日本国皇太子殿下並びにデンマーク皇太子同妃両殿下の特別展御視察

修復・デジタル化等の先端技術を活用した**国内のセンター拠点**人材育成や情報ネットワークを通じ**国際的な情報センター拠点**としても機能